

多摩放射線技師連合会主催 第 26 回教育セミナー

日 時：平成 30 年 2 月 27 日（火）18：40～

場 所：国分寺労政会館 4 階 第 4 会議室

会 費：500 円（新卒・学生無料）～多摩放技カード 2 ポイント付与～

I 「ダイナミック胸部X線撮影」 18:40～19:00

講師：コニカミノルタジャパン(株) 谷川誠哉 先生

呼吸する胸部エックス線写真

II 「救急CTのチェックポイント」 19:05～20:35

講師：日野市立病院放射線科 宮澤雷太 先生

「トゥルルル、トゥルルル、トゥルルル.....」当直 PHS が鳴る。

「はい、放射線科〇〇です」

「急性腹症で 5 分後に救急車が入ります」

診療放射線技師 2 年目。当直勤務にも少しずつ慣れてきたが、夜中のコール音には相変わらずドキッとさせられる。時計に目をやる。1：15。

患者の主訴は発熱、腹痛、背部痛らしい。撮影依頼は、胸部 1 方向、腹部 2 方向と胸部・腹部・骨盤部造影 CT。

当直医がやってきて「他院のデータで腎機能は OK みたいだから適当に造影よろしく」と何処かへ行ってしまった。カルテには持参された健診の採血結果と同意書の他にまだ何の記載もない。

さて何をどう撮ればいいのか。こんな夜中に先輩技師に電話する訳にもいかないし、頼れるのは自分だけ.....。

痛がる患者を励ましながら何とか撮像し終えてリコンしていると、また何処からともなく当直医がやって来て、「何かあった？」と一緒に画像を眺め始めた。

「アッペっばいけどイマイチはつきりしないんだよなあ。」

「僕、普段 CT 見ないから分からないんだけど技師さんの的にどう？」

「.....」 答えられない (泣)

「外科の先生呼んだ方がいいかなあ。特になければ朝まで粘ろうかな」

「.....」 何と言っていいのか (汗)

さあ、あなたならどう答える？ 画像のスペシャリストとして、的確に医師に伝えるべきことは？

そんな迷える若手診療放射線技師たちの疑問に新鋭放射線科医が応える。

「こういう症例はこう撮れ。そして、診断のチェックポイントはここだ」

必聴の熱いレクチャーを聞き逃すな！

質疑応答 20:35～20:45

懇親会 21:00～ 参加費 3,500 円